

乳幼児とのふれあい方へのアドバイス

ーゲストティーチャーをお招きしてー

ふれあい体験に対して、幼児と直接ふれあう機会の少ない中学生は不安に感じていることも多い。

そこで事前にゲストティーチャーを招いて幼児についてのお話をうかがった。

中学生の不安を和らげるとともに、受け入れ先でのトラブル防止にもつながると考えられる。

1. 題材名

幼児との遊びやかかわり方の工夫を考えよう

「触れ合い体験（保育実習）の事前学習」

2. 題材観

現代は、物や情報があふれ社会環境が大きく変化しその中で人々の生活は激変して価値観が多様化し、人間関係が希薄化されている。一方社会の進歩とともに核家族化・少子化が進み、家庭に幼児はいないという生徒も多く、近所にも幼児が少ないため、多くの生徒は幼児と直接ふれあう機会に恵まれないことから幼児の接し方に不安を感じ、世話が大変なのではないかという意識があるようだ。そこで、「幼児の生活と家族」の学習において、「幼児とのふれあい体験（実習）」に注目した。生徒が直接、保育園・幼稚園に出向き乳幼児とふれあうことで、乳幼児に対しても関心が高まり、学習に対し興味をもち、より主体的に学習に取り組むことができるであろうと思われる。またそのふれあい体験に取り組む際、個に応じた課題を設定しやすいように、乳幼児とのかかわり方のアドバイスや保育園・幼稚園でのマナーなど、ふれあい体験の事前にゲストティーチャーを招き、講和を聞く場面を設定した。

そうしたことで、ふれあい体験に対する不安

を取り除くことができるだろうと考えた。また、ひいては受け入れ先の保育園・幼稚園の現場での問題を未然に防止することにもつながるであろうと思われる。

3. 指導計画

全 18 時間

オリエンテーション

・幼い頃ってどんなだったろう 1 時間

幼児の生活と遊び 4 時間

幼児の心身の発達の特徴 4 時間

子どもにとっての家族 1 時間

保育実習の事前学習 1 時間(本時)

保育実習 1 時間

おもちゃ製作 4 時間

保育実習 1 時間

中学生にとっての家族 1 時間

家庭と地域との関係

4. 指導目標

- (1) 幼児の心身の発達を考えた遊びやかかわり方の工夫を考えることができる。
- (2) 乳幼児に接する上での心構え及びマナーを理解できる。
- (3) ふれあい体験（保育実習）の際、具体的な課題を考えることができる。

5. 本時の展開

| 段階 | 時間 | 学 習 活 動 | 指 導 上 の 留 意 点 | 評価の観点とその方法 |
|------|-----|--|--|---|
| 気づく | 2分 | 1. 本時の学習内容を確認する。 | 1. 本時の内容を知る。 | |
| ／ | ／ | 2. ゲストティチャーの講話を聞く。 ①子どもの一日の生活 ②遊びの意義 ③子どもの身体的・精神的成長 ④保護者の気持ち | 2. ゲストティチャーからのそれぞれの視点の講話を聞く。 ○幼児の成長と家族について興味を持って聞くことができるか。 | 2. 幼児の成長と家族について興味・関心を持ち聞くことができたか。 (乳幼児に関する資料) |
| 考える | 40分 | ⑤乳幼児の接し方の基本的事項 ⑥保育実習の時の服装 ⑦子どもとのかかわり方 | ○乳幼児に接する上での心構えやマナーについて理解させる。 ○基本的な注意事項をしっかりと守ることで、保育園や幼稚園での未然の事故防止にもつながることを理解させる。 | ○乳幼児に接する上での心構えやマナーについて理解できたか。 (乳幼児に関する資料) ○意欲的に発表しようとしているか。 |
| 深める | ／ | 3. 保育園・幼稚園の訪問の際に、自分の課題を考える。 | 3. これまでの学習を振り返らせ、乳幼児との遊び方やかかわり方の工夫を考えさせる。 ○乳幼児とのかかわり方がわからない生徒はゲストティチャーからのアドバイスを受けさせる。 | 3. 保育園・幼稚園の訪問の際に具体的な課題を考えることができたか。 (ワークシートに記述) |
| ／ | ／ | | | |
| まとめる | 8分 | 4. 本時のまとめをする。 5. 次時の予告をする | 4. ゲストティチャーへの感謝のことばを述べさせる。 5. 次時の予告を聞く。 | |

6. 評価

- (1) 幼児の心身の発達を考えた遊びやかかわりの工夫を考えることができたか。
(2) 乳幼児に接する上での心構え及びマナー

を理解することができたか。

- (3) 保育実習の際、具体的な課題を考えることができたか。